

はじめに
EBPM と ICT の
有用性
データ間の因果性
と改善値の導出
提案手法
数値実験並びに
考察
おわりに
現状報告

証拠に基づく政策立案のための オープンデータを利活用した WebGIS 可視化によるデータフュージョン

長瀬 永遠

富山県立大学 情報基盤工学講座

January 14, 2022

1.1 本研究の背景

2/19

背景

- 近年、世界各国で証拠に基づく政策立案（Evidence-Based Policy Making: EBPM）に注目が集まっている。日本においても例外ではなく、研究機関でも取り上げられている。
- 政府を中心に推進されている EBPM であるが、地方自治体ではいまだにエピソードベースの意思決定が根強い。

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

1.2 本研究の目的

3/19

目的

政策決定における対象の複雑性という課題に対して、多種多様なデータから対象と因果関係のあるもののみを抜き出して分析し、GIS を用いて結果を提示することで政策決定の支援を行う手法を提案する。

はじめに

EBPM と ICT の有用性

データ間の因果性と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに考察

おわりに

現状報告

2.1 ICTとデータの利活用による行政施策

4/19

ICTを用いたEBPM推進の例

EBPMの考え方を実行するためには膨大なデータの収集・分析が必要になる。EBPMを広範囲に的確かつ効率的に取り入れるにはICTの有効活用が求められる。このことから、内閣府を中心に地方自治体におけるEBPMを支援するためのシステムが複数提供されている。

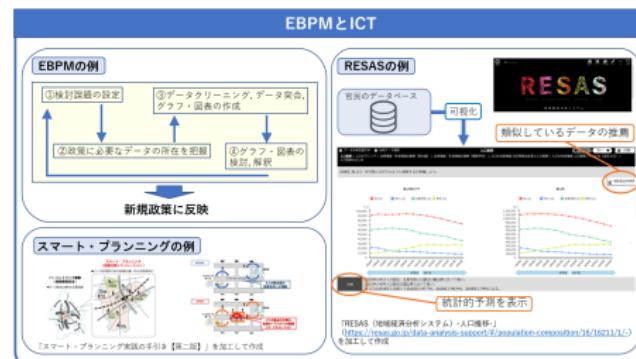


図 1: EBPMとICT（要修正）

2.2 GISによる地域的な政策決定支援

5/19

GISとは、地理空間データを総合的に管理・加工し、地理的位置とデータを結び付けて視覚化できる技術。

GISを使用することの3つの利点

- 業務効率化によるコスト削減
- 最適な意思決定の促進
- コミュニケーション性の向上

GISを用いた政策決定の実例

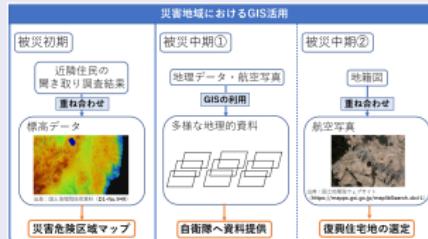


図 2: 福島県相馬市の例

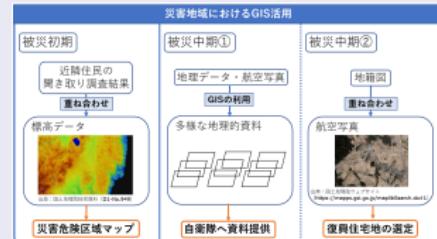


図 3: ○○

2.3 WebGISによるデータフュージョン

6/19

GISは多様なデータに対して地理空間を介在することで同一プラットフォーム上に可視化できる。そのため、普段は別々に研究が行われている分野の研究結果を重ね合わせて新たな知見を得ることが可能。

複数分野のデータフュージョンによる新知見の発見

はじめに

EBPMとICTの有用性

データ間の因果性と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに考察

おわりに

現状報告

3.1 因果探索によるデータ間の関係性

7/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

3.2 DEAによる効率値と入力・出力改善値の導出

8/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

3.3 Folium を用いた WebGIS の開発

9/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

4.1 統計データのデータベース作成と因果探索によるデータの選定

10/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

4.2 選定されたデータに基づく DEA 分析

11/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

4.3 WebGIS を用いたデータフュージョンのシステム開発

12/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

数値実験の結果と考察

13/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

おわりに

14/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

進捗状況 1

15/19

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

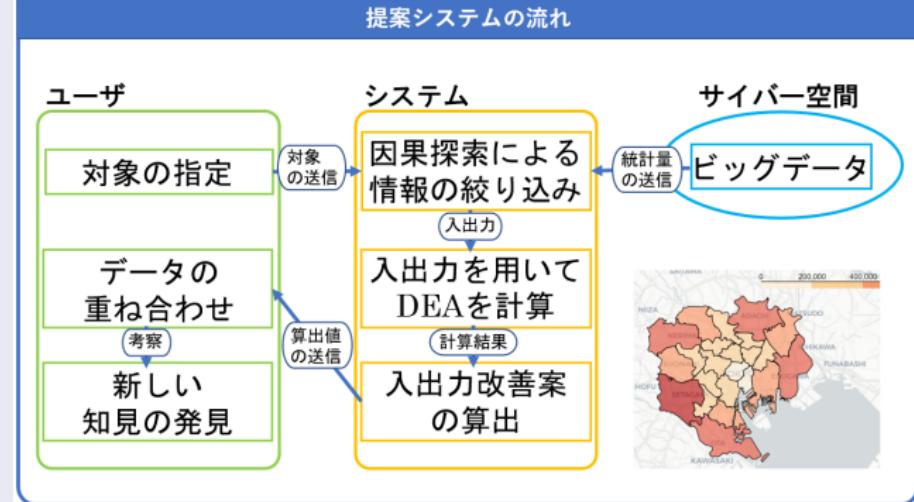


図 4: システムのフロー

進捗状況 2

16/19

因果探索

はじめに

EBPM と ICT の有用性

データ間の因果性と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに考察

おわりに

現状報告

就業者数	人口	事業所数	地価_住宅	地価_商業	乱数_1	乱数_2	乱数_3
209403	418686	6154	41924	96000	1280.693	3222.395	133870
85832	172125	2354	32246	74666	925.9376	4843.729	162275.7
21940	42935	505	36000	65700	1489.198	7234.628	194195.5
23738	47992	318	33025	49900	723.5999	6674.72	93591.08
17065	32755	172	26233	40000	917.6694	6798.834	178289.7
20811	40991	327	26500	52750	1342.32	8397.706	110471.9
25712	49000	451	31700	42633	1830.67	341.4045	151687.2
15812	30399	269	22166	50600	1365.636	4760.153	177582.3
27029	51327	572	24116	41200	517.4427	2769.082	105788
46605	92308	1194	29228	44450	862.4601	1425.979	121991.3
1586	2982	10	19500	26200	756.4645	1022.445	197765.4
10496	20930	151	18900	30200	1286.429	6111.826	104155.9
13700	26317	100	17700	34500	1135.203	8172.202	67857.17
13099	25335	123	21450	35300	1727.469	8260.787	48688.03

15		
1	1	
事業所数	地価_商業	
float	float	
6154	96000	
2354	74666	
505	65700	
318	49900	
172	40000	
327	52750	
451	42633	
269	50600	
572	41200	
1194	44450	
10	26200	
100	30200	

図 5: LiNGAM インプット

図 6: LiNGAM アウトプット

進捗状況 3

DEA

はじめに

EBPM と ICT の有用性

データ間の因果性と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに考察

おわりに

現状報告

7			
2	2		
医師数	平均入院	一日平均患	医療収益
float	float	float	float
17	15.5	226	2.3
58	29.1	661	5.6
72	15.8	1695	9.79
19	20.4	514	2.68
11	19.2	543	2.21
54	13.1	1447	11.05
8	24.9	390	1.82

図 7: DEA インプット

効率値	
city_code	effic_value
1	0.644373
2	0.467123
3	0.971215
4	0.694685
5	1
6	1
7	1

参考市区町村 (入力指向)	
city_code	weight_in
5	0.627373
6	0.112768
7	0.026054

改善案	
imp_item	imp_value
医師数	13.19901
平均入院	14.17157
一日平均患	739.9039
医療収益	3.857865

参考市区町村 (出力指向)	
city_code	weight_out
5	0.903104
6	0.16233
7	0.037505

図 8: DEA アウトプット

Folium

実際に見せます

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

はじめに

EBPM と ICT の
有用性

データ間の因果性
と改善値の導出

提案手法

数値実験並びに
考察

おわりに

現状報告

今後の課題

- 本論の完成
- GIS の施設位置レイヤーの作成
- 発表資料の作成